

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第3部門第1区分
 【発行日】平成20年9月11日(2008.9.11)

【公表番号】特表2004-508263(P2004-508263A)
 【公表日】平成16年3月18日(2004.3.18)
 【年通号数】公開・登録公報2004-011
 【出願番号】特願2002-525041(P2002-525041)
 【国際特許分類】

C 0 1 G 49/08 (2006.01)

【F I】

C 0 1 G 49/08 B

【手続補正書】
 【提出日】平成20年7月16日(2008.7.16)
 【手続補正1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】特許請求の範囲
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】

【請求項1】 平均粒度(33000倍の透過電子顕微鏡写真により測定)0.1~0.3 μm 、比表面積6~9 m^2/g 、保磁力(5000 Oe =397.9 KA/m の磁場強度で測定)80~110 Oe (6.366~8.754 KA/m)、残留磁化13~20 nTm^3/g 、 pH 7~10および嵩密度0.6~0.9 g/cm^3 を有し、立方晶癖を有するケイ素低含量のマグネタイトを製造する方法において、

- a. アルカリ成分を水溶液の形で保護ガス下に予め装入し、
- b. 沈殿温度65~85、有利に70~80に加熱し、
- c. Fe -濃度、 Fe 55~105 g/l 、有利に71~97 g/l および $\text{Fe}-\text{III}$ 含量、 $\text{Fe}-\text{III}$ 0.2~1.5モル%、有利に0.5~1.0モル%を有する鉄- III -成分を NaOH モルあたり0.25~1.5モル Fe/h の速度で、沈殿温度で測定した懸濁液の pH 値が8.0~9.7、有利に8.5~9.5になるまで添加し、かつ
- d. 懸濁液の酸化を酸化剤を用いて、速度 $\text{Fe}-\text{III}/\text{h}$ 7~25モル%、有利に11~23モル%で、 $\text{Fe}-\text{III}$ 含量、 $\text{Fe}-\text{III}$ 65~75モル%まで実施する、ことを特徴とする、ケイ素低含量のマグネタイトの製法。